

平成30年度 第3回 菊池市の未来を考える懇談会会議録

日時：平成31年2月21日（木）10：00～

場所：菊池市役所 3階 304会議室

出席者：田中忠彦委員、松岡義清委員、北村聡一郎委員、山口法子委員、上田加代子委員、
菊永光作委員、江藤継喜委員、古津理恵委員、青木悦朗委員、佐美三信雄委員、
山下和貴委員、松岡友美委員、上野眞也委員

傍聴者：なし

事務局：江頭市長

元島政策企画部長

【企画振興課】泉課長、上野係長、松村主事【防災交通課】川島係長

【熊本大学熊本創生推進機構】村上政策研究員

1. 開 会 進行者：泉企画振興課長

2. 会長あいさつ 上野会長

3. 市長あいさつ 江頭市長

4. 議 題

(1)菊池市の未来を考える…資料1

①「災害に強いまちづくり」及び「働き方改革と行政サービスの改善」について

（議長）	それでは、進めさせていただきます。はじめに、市長の4ヵ年戦略の分野の中の、「①災害に強いまちづくり」と「⑤働き方改革と行政サービスの改善」について、意見交換をしたいと思います。まず、現在の市の取組について、事務局より説明をお願いします。
------	--

企画振興課（松村）説明…資料1、参考資料

（事務局）	ありがとうございました。説明のあった各分野について、質問や意見等はありませんか。
（委員）	今回の地震で一番感じたことは、地域の絆です。避難生活等で一緒に過ごしたこともあり、地域のつながりが強くなったと思います。また、食糧等の備蓄を行う家庭が熊本地震をきっかけに増えたと思います。一方で、地域で防災に関する講習や勉強会を行っていますが、ハザードマップの存在を知らない方が多くいます。それから、避難場所を知らない方もいました。市で既に周知をしていると思いますが、更なる

	周知が必要だと思います。
(議長)	ありがとうございました。広報や回覧等で市から配布されていても、知らないと言われる方は多いと思いますので、啓発が必要だと思います。一方で、災害が発生した際に、地域住民同士での声かけや助け合いがあるととても心強いと思います。
(委員)	数年前の新聞に熊本県内の自主防災組織設立状況の記事が載っていて、菊池市の自主防災組織率は県内でかなり低い状況でした。それが、現在は約8割の組織率となり、一定の体制づくりはできつつあると思います。自主防災組織の中には、積極的に活動したいと思っている組織もあると思うので、そうした組織が活動する上での助成制度を設けて、やる気のある組織を支援してもらいたいです。自主防災組織設立の際に市から補助はありますが、活動面での支援も検討する必要があると思います。また、菊池市防災士会が昨年発足し、防災士の育成に取り組んでいると思います。市長の戦略の中で、防災士500名体制を掲げていますが、まだ3割にも満たない状況です。災害時には防災士が地域のリーダーとして動いてもらう必要があるので、体制づくりは重要だと思います。現在防災士会がありますが、例えば旧市町村ごとに支部を設け、役員を選出し、市から委嘱するといったことが必要だと思います。それから、防災士同士の意見交換の場も必要だと思います。そして、民生委員の方は地域の高齢者の情報などを把握しているので、そうした方と防災士の連携も必要だと思います。それから、防災を考える上では、地域住民同士の日常のコミュニケーションやつながりがとても重要ですので、あいさつ運動を市民運動として広めてはどうかと思います。
(議長)	ありがとうございました。自主防災組織の活動や防災士会の組織体制の充実、地域住民の関係性を日常から高めるためのご提案などをいただきました。
(委員)	先日、男女共同参画の研修に参加した際に、男性が育児休業を取れていない現状があるという話を聞きました。市の方でも改善策を考える必要があると思います。
(議長)	障壁になっているのはどういったことがありますか。
(委員)	給料などの収入が減るということが大きな要因のようです。ですので、育児休暇を取得しても一定の給料が保障されるような制度づくりも必要だと思いますし、良い事例を作ってそれを広めていくことも必要だと思います。
(議長)	半年などの長期間は難しいかもしれませんが、数日でもいいので育児休暇の取得が進むといいですね。時間の都合もありますので、これら

	の分野についてのご意見があれば、また後ほど発言してもらえればと思います。
--	--------------------------------------

②今後の菊池市にとって、重要だと考える分野について

(議長)	次に、これまでの懇談会でいただいたご意見等を事務局で整理していますので、その説明を聞いた後に委員の皆さんから更なるご意見をいただきたいと思います。
------	---

企画振興課（松村）説明…資料2、資料3

(議長)	ありがとうございました。これまでの懇談会の中で様々なご意見をいただけてきましたが、それらを今後にどう生かしていくかについてや今後菊池市にとって、特に重要だと思われる分野について、ご意見等をいただきたいと思います。先日、新聞の社説に「フューチャーデザイン」という言葉が掲載されていました。本懇談会のような会議の場で、私たちは、給食費を無料にしてほしいなど目の前の課題や物事について意見や要望する傾向にあります。そうしたことはもちろん重要ですが、子ども世代の将来の理想とする姿を実現するために、今何をすべきかという観点も必要だと思います。そうした両方の視点を意識してもらいながら、ご意見等をいただければと思います。お一人ずつご意見をお願いします。
(委員)	今後、ICTやAIの活用が社会全体に進んでいくと思います。市でもそうした取組が行われているようなので、さらに充実してもらいたいと思います。そのためには、指導者の育成が必要だと思います。例えば、学校現場では、児童生徒を対象とした講習は行われていますが、指導する人がいなければ何も始まりませんので、指導者を育成するための研修を充実する必要があると思います。また、観光に関して、ちょっとしたことですが、案内板の中で文字が消えているものや破損しているものなどが見受けられます。ですので、案内板等を点検してもらい、観光しやすい環境整備をしてもらいたいと思います。加えて、市内の各施設のトイレについて、トイレは観光面で重要な要素ですので、併せて整備を進める必要があると思います。
(委員)	本懇談会には素晴らしい方々が集まっていると思いますが、本懇談会の存在意義やあり方を改めて見直す必要があると思います。ただ意見を述べるだけでなく、それぞれの強みや専門性を生かし、具体的に活動していくことがあるべき姿ではないかと思います。市としても、本懇談会の目的やあり方を再検討すべきだと思います。市の他の会議にも参加していますが、目指すゴールを明確に設定する必要がある

	<p>と思います。例えば、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議では、KPI という目標となる指標を設定しています。具体的なゴールを設定し、分野別にチームを作り、本懇談会の委員や市民の方を巻き込んで、行政と一緒にあった取組みが来年度以降の本懇談会で動いていければありがたいと思います。私自身も共にそうした活動に参加できればと思います。</p>
(議長)	<p>これまで市の事務局と本懇談会のあり方などについて話をしてきました。分野別のチームで具体的な取組みができないかという意見は以前からいただいていた、まだ実現には至っていませんが、今後、意見交換の場の中で抽出された具体的な提案等について、委員や市民の方、行政と一緒に活動できる場ができれば、とても面白い試みだと思います。市の方でも、本懇談会のあり方や運営の再検討をお願いしたいと思います。</p>
(委員)	<p>子どもたちは今後の菊池市を担う貴重な人材ですので、育成の取組みをさらに充実してもらいたいです。また、市役所窓口のフロアマネージャーの配置や庁舎の整備など、ハードとソフトの両面で変わっているように思います。それから、防災に関して、自主防災組織の設立や防災士の育成などのソフト面は充実していますが、一方で、施設の防火扉が壊れていたり、駐車場の街灯が壊れたままであったりする所も見られるようです。予算の都合もあるとは思いますが、災害に強いまち菊池市を作るために、ハード面の整備にも取り組む必要があると思います。そして、最近では、あおり運転等の対策として、ドライブレコーダーの設置が増えています。ですので、例えば、市内の防犯カメラの設置や街灯整備などを進めることで、防犯がしっかりしたまちになりますし、女性の観光客などにも菊池市の夜を安心して楽しんでもらえるようになると思います。</p>
(委員)	<p>将来を見据えて、多少の予算をかけてでも、JR等の交通機関を充実する必要があると思います。JR等の交通機関が充実することで、市外から人が集まりますし、高校への進学者も増えると思います。将来的に菊池市にJR等の交通機関が通るようになることを期待しています。</p>
(委員)	<p>本懇談会の発足当初から参加していますが、行政の取組みと市民の力によって、目に見えて変わっていますし、SNS等による情報発信によって、市民参画も進んでいると思います。また、熊本地震などを契機に、地域のつながりがより深まったように思いますので、さらにそのつながりを深めることで、地域の活動がより活発になり、そんな菊池市に行ってみたい、住んでみたいと思う人が増えると思います。</p>
(委員)	<p>菊池市内の空き家が増えていますので、市の空き家バンクを積極的に</p>

	<p>活用し、移住者の増加につなげる必要があると思います。昨年、私の住んでいる地域に市の空き家バンク制度を利用して移住した方がいますが、移住前には、私たちとの事前面談を行い、地区の決まり事などを伝え、納得した上で移住し、地区の会合や行事にも積極的に参加してもらっています。民間の不動産会社を通じてそのまま地域に移住した場合と市の空き家バンク制度を通じて移住した場合とでは、地域への溶け込みやすさが異なると思います。また、最近の熊日新聞で菊池市の話題があまり載っていないと思います。地域を担当する新聞記者によって異なるのかもしれませんが、菊池市の魅力を積極的に発信することが必要だと思います。</p>
(委員)	<p>観光について、菊池市の自然や歴史、文化を生かしたフットパスやウォーキングイベント等に継続して取り組む必要があると思います。併せて、地元産品を使った料理等を提供することで、来訪者のおもてなしにつながると思います。また、姉妹都市との交流を通じた観光PRにも継続して取り組む必要があると思います。それから、経費がかかる提案だと思いますが、隈府などの市街地のまちづくりについて、昔ながらのレトロな雰囲気を持ったまちにできればいいと思います。例えば、白壁の漆喰のある建物や井手が流れる街並みなどが形成できれば、温泉も含めて観光客がもっと訪れるようになると思います。そして、市民の郷土への理解や愛着を高めるために、菊池一族や西郷隆盛など菊池にまつわる偉人や伝統芸能を知ることができるような催しに力を入れる必要があると思います。また、高校魅力化について、ハイスクールフェスティバルなど様々な取組みが行われていますが、菊池電車が廃線になったことが影響していると思いますので、電車等の交通手段が確保できればいいと思います。それから、婚活について、行政と連携しながら、個人的にもできることに取り組みたいと思います。そして、高齢者に優しいまちづくりについて、べんりカー・あいのリタクシーの運行や移動販売の取組みが進められていますので、そうした取組みをより充実させる必要があると思います。</p>
(委員)	<p>人材育成について、現在市で行っている「フューチャーラボ KIKUCHI」に参加していますが、様々な分野の講師の話など面白い内容だと思います。その講座を受けながら、フューチャーラボ KIKUCHI のジュニア版をいつかやりたいと思っています。地元で活動している方などの話を子どもたちが聞くことで、菊池でもできることがあると感じてもらえると思うので、そうした取組みを通じて、芯を持って、リーダーシップを発揮していくような子どもたちを育てていければと思います。一方で、リーダーシップを持って周りを引っ張れる子ばかりとは限らないので、縁の下で支えるような役割を担うような子どもなど、一人</p>

	<p>ひとりの個性に合った人材育成の方法を見つけていければと思います。また、高校魅力化について、子どもが求める学科や部活動が菊池市の高校になれば、子どもたちの進路選択からはどうしても外れてしまいます。できれば、地元の子どもの地元の高校に残ってほしいと思いますが、そればかりを求めるのではなく、市外からでも菊池市の高校に進学したいと思ってもらえる子どもを増やすことも必要だと思います。市外の高校に進学しても、菊池市民であることに誇りを持つような取り組みが必要だと思います。それから、郷土教育に関して、例えば、菊池一族について、同じ菊池市市民でも、住んでいる旧市町村によって、子どもの頃の学習度合いも違うので、関心や理解が異なると思います。私たちの世代は、旧市町村によって学習の頻度が異なっていたと思いますが、今の子どもたちには、幼い頃から菊池の歴史・文化に触れさせてあげることが大切だと思います。</p>
(委員)	<p>菊池市内には、工業団地や企業など多数あり、菊池市出身の若い社員もいますが、企業の人に話を聞くと、そうした人は結婚すると菊陽町や合志市など熊本市近辺に居住してしまう人が多いそうです。菊池市への居住を促すことを考えたときに、子育て面や交通アクセス面などが重要になると思います。熊本市内への交通アクセスを考えたときに、道路が狭かったり、工事中になったりしている箇所があるので、ハード面の整備は必要だと思います。また、農業に関して、都市部の若い人の中には農業へ関心を持っている人がいます。都市部ではそうした方向けの説明会や相談会が行われており、移住先として長野県などが人気ですが、そうした地域では、県や市町村、農業団体などが連携し取り組んでいます。ですので、菊池市も都市部での説明会等に参加し、PRする必要があると思います。それから、都市部の若い人が菊池市で農業をしようと考えたときに課題となるのが、住居や農地、農業技術などです。菊池市には空き家バンク制度がありますが、空き家の家財道具やトイレ等の整備などを市がサポートする必要があると思います。そして、私の住んでいる地域でも農業従事者の高齢化が進んでおり、空き農地が増えてくると思います。国の方では、若い農家の法人化や規模拡大が推進されていますので、県や市、農協が連携して取り組む必要があると思います。一方で、法人化せずに個別に取り組みたい農家もいるので、そうした農家への研修や支援の充実も求められると思います。</p>
(委員)	<p>健康的な温泉地づくりを進める必要があると思います。先日、菊池警察署の関係者と話をする機会がありましたが、熊本県内の中で、菊池市は配属希望先としてとても人気があるという話を聞きました。質の良い温泉や美味しい食などがあることが人気の要因のようです。また、</p>

	<p>最近、高齢者を中心にいきいき百歳体操を行う地域が増えており、健康へのニーズは高まっているので、温泉を生かした健康づくりのイメージを高め、観光客の誘致につなげてもらいたいと思います。</p>
(委員)	<p>私もそれなりの年齢になりましたが、最近では百寿社会という言葉聞くようになっており、余生の過ごし方が重要になってきていると思います。まちづくりを考える上で、若い人が移住してもらえればとても魅力的ですが、簡単にはいかないと思います。ですので、むしろ百寿社会をベースに置き、中高年の方を呼び込み、中高年の方の知恵や技能を生かしたまちづくりを進められれば良いと思います。隈府などの市街地は、食事処があり、自然・歴史・文化に恵まれ、図書館などの公共施設も充実しており、移住先としてとても良い環境だと思います。</p>
(委員)	<p>先日、龍門地域にある神龍八大龍王神社に行きましたが、そこはとても有名なパワースポットであり、都市部にいる友人もとても感動していました。菊池渓谷などの観光スポットと合わせてPRしてもらいたいと思います。また、菊池の食の魅力を味わえるような食事処があれば、菊池市をより満喫できると思います。それから、農業者を対象とした婚活事業のお手伝いを個人的に行っていますので、農業に興味のある方がいれば、個人的にでも構いませんので相談してもらいたいと思います。そして、災害に関して、市とJAが協力体制を整えておけば、災害時の炊き出しなどスムーズな対応につながると思います。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。様々な観点からご意見をいただき、私も共感する点があくつかありました。例えば、移住定住の取組みが全国的の自治体で行われていますが、一部の自治体で極端に人口が増えることはないと思います。菊池市にも多くの方が移住しており、ポテンシャルは高いと思うので、自然や食、子育て環境などの魅力を総合して、菊池市での生活の質をより分かりやすく伝えることができれば良いと思います。また、統計的にも少子高齢化が進行していることが表れており、危機感をあおるような伝え方がなされていますが、百寿社会と言われているように、100歳以上の方も増えていき、活力を持った高齢者が増えていくと思います。大分県は、重化学工業などのエンジニアなどが多数いますが、そうした方々が退職し、中小企業の技術アドバイザーの組織を作り、企業へ支援に行くという取組みが行われているようですので、そうした人材を活用できるような観点は大切だと思います。それから、事業継承に関して、自身が持っている技術やノウハウを継承できるような仕組みを作ることは、言うのは容易いですが、マッチングなどのサポートが必要ですので、中長期的に取り組む必要があると思います。</p>

(議長)	それでは、市長の方から本日の懇談会の振返りをお願いします。
(市長)	<p>本日は多様なご意見をいただきありがとうございます。6年前の私の市長就任当時から比べると、会議の中身がかなり変わってきたと思います。当時は、合併前の旧市町村ごとの要望や不平等感に対するご意見等が多かったですが、自分事としての意識が高まり、市全体をより良くするためのご意見が多くなったように思います。例えば、観光について、インフラ整備が必要な部分は多々あり、PRにもより力を入れる必要がありますが、行政だけではできませんし、菊池市の暮らしの魅力を知ってもらうことが大切だと思います。現在、花いっぱい運動を進めていますが、行政だけでは美しい景観を維持することはできませんので、市民一人ひとりの意識や活動が必要ですので、行政の方から苗代等の経費を補助し、手入れ等を市民に担ってもらうことで、自分自身のやりがいになり、市全体の魅力も高まります。これから人口が減り、財源や担い手が不足していくことは避けられないので、官民連携が不可欠になると思います。本日の懇談会で、委員の皆さんの自分事の意識の高まりを感じましたので、そうした熱意を持った仲間を増やしてもらいたいと思います。先日、ドイツのフライブルク大学から温泉療法などを研究している教授をお呼びして講演会を行いました。ドイツには、クアハウスという温泉を使った療養施設があり、運動と温泉を組み合わせた療法などが行われています。最近では、サイクリングや読書、温泉療法、コンサートなどを組み合わせたプログラムがトレンドになっているそうです。その教授の方に菊池市を見て回ってもらい、温泉や図書館など素晴らしい環境が整っているという感想をいただきました。ドイツでは、そうしたプログラムを1つの施設で完結しているわけではなく、街全体で癒しの空間を形成していますので、既存のプール施設や図書館を活用できると思いますし、自転車シェアリングなどを導入するなど、工夫を凝らすことで菊池が持っている魅力を総合的に生かすことができると思います。先ほど、委員からの意見としてありましたが、自分にできることは何かを考えるということが大切だと思います。その中で、行政にやってほしい部分と市民でできる部分を考え、協働することがこれからの地方に求められることだと思います。</p>
(議長)	ありがとうございました。少し時間がありますが、委員から他にご意見はありますか。
(委員)	旭志にある県の工業団地の現状はどうなっていますか。
(市長)	企業進出については、本市から県に情報提供等をしていますが、県が求める進出企業の条件等もありますので、県と連携しながら誘致を図

	っているところです。
(委員)	昨年広報紙に私が取り組んでいる活動を記事として掲載していただいた影響で、様々なところから相談があっています。この懇談会をきっかけに、様々な可能性が広がったように思います。
(委員)	菊池のまちづくりの根幹は、懐良親王が菊池に来られたことが大きな影響を与えています。しかし、懐良親王に関することがあまり伝わっていないと思うので、もっと発信する必要があると思います。
(委員)	市街地のまちづくりについて、市民広場や図書館の整備など部分的には進んでいます。隈府などの市街地の今後のまちづくりについて、今後の懇談会で考えていければいいなと思います。
(議長)	ありがとうございました。今後の本懇談会の進め方等については、市の方で検討してもらいたいと思います。それでは、時間になりましたので、本日の議題については、終わります。2年間大変お世話になりました。最後に、事務局からお願いします。

6. その他

(事務局)	それでは、懇談会を閉会させていただきます。
-------	-----------------------